

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和元年8月6日 VOL.115

病院と施設、治療と生活…そして「終の棲家」は、どこに？

令和元年7月22日（月）志太医師会講堂を会場に、本年度 第1回目の **在宅医療部会**（主催：志太医師会）を開催し、市内の医療機関や介護施設から100人超が出席しました。

志太医師会錦野会長からは、昨年12月に開催した「医療・介護・福祉フォーラム」をきっかけに、市民とともに「平穏死を考えるつどい」へと発展してきた経緯を、志太医師会在宅医療サポートセンター杉浦センター長からは、「高齢者の疾患の特徴・治療と生活・病院の使命・施設の在り方」などから高齢者に対する「治療を目指す医療」から「寄り添う医療（介護）」について考える会にしたいという主旨説明がありました。

平成30年の死亡診断書（藤枝市）では、総死亡数1,540人の死亡場所が多い順に「**病院62.7%**」「**自宅16.1%**」「**老人保健施設9.4%**」「**老人ホーム7.8%**」という状況でした。そこで、それぞれの施設の特徴や想いについて報告していただきました。

誠和藤枝病院：医療療養病床について

228床の療養病床がある。患者さんの家族は「自宅で看たいが医療処置ができない」ことからの選択が多い。**治療の場であるが少しずつ生活に寄り添えるよう社訓に「愛される病院」**を掲げて努力している。



看護部顧問 佐藤恵美氏
MSW 吉川尚吾氏

駿河西病院：新設 介護医療院について

回復期リハ50床・医療療養100床に加え、6月から介護医療院50床を新設し、**医療依存度の高い要介護者の受入れ**を始めた。併設の老健と比較し乍ら生活の場であることを肝に命じ、その方に合った看護・介護になっているか振り返りながらサービスを提供している。



事務長 菅原景吾氏

第2開寿園：特別養護老人ホームについて

利用者をご家族を一番近くで支えられる環境に整え、同職種、多職種協働の**チームケア**を目指している。短期入所でも希望があれば看取りも行うが施設を終の棲家と選択するのは利用者や家族であり**利用者ファースト**の精神を心がけている。



介護課長 増田知佐子氏

ユニケア岡部：介護老人保健施設について

特長を「**地域で支え、地域で看取る**」と最期まで道筋のついたサービスの提供を信条としている。管理しようせず「持ち込み可」「就寝・起床時間自由」など、「**その人らしさ**」と「**こだわり**」が出せるケアを提供している。



副施設長 小沼克典氏

グリーンヒルズ藤枝：リハ病院併設の老健

リハビリテーション専門病院を併設しており、介護老人保健施設本来の**在宅復帰する人を中心とした施設**だが、近年は施設看取り希望の人もおり、一昨年は29人の看取りを行った。利用者に「**終の棲家となりえますか**」と問われれば「**イエス**」と答えている。



施設長 鮫島剛氏
医師

杉浦在宅医療サポートセンター長 まとめ

「多くの人は家で死にたい」と希望するが「家で看れない」から施設に入所する。であれば医療施設であっても積極的に介護に取組み、ご本人と家族の意向に沿うことが大切である。**医療と介護の連携を目指すと言っているが、医療が介護に近づく努力も必要な時代になった。**

